

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271300396		
法人名	医療法人社団大塚会		
事業所名	グループホームからこ		
所在地	長崎県諫早市森山町唐比1125-2		
自己評価作成日	平成27年12月17日	評価結果市町村受理日	平成 28 年 4 月 8 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigvosvoCd=4271300396-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成 28 年 1 月 14 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>#1. 病院併設の為、緊急時安心して暮らせる。又、常時ドクター・看護師との連携も取れる為、相談等もすぐ出来る体制にある。</p> <p>#2. 法人内の研修も月1回以上はあり、職員の意識、技術の向上に力を入れている。</p> <p>#3. 経管栄養の入居者もいる。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>病院併設のホームは、家庭的な雰囲気を大切に入居者が穏やかに過ごせるよう医療連携によって、健康状態の把握に努めている。入居者一人ひとりの身体状況も重度化し、外出の機会も思うように支援できない現状があるが、リハビリや廊下での歩行訓練で筋力保持に努めている。課長は、ホームの現状を把握し、入居者が安らいで過ごせる空間の確保の為に、電動ベッドへの交換や照明器具の交換など積極的に取組んでいる。また、職員は、日々業務の際に理念を意識して支援に努め、法人内の3事業所で立ち上げた身体拘束委員会の取組みや内外の研修、また、看護師及び薬剤師の指導の下職員のレベルアップを図り、チームワークを持って支援に取組んでいる。入居者が地域の活動で交流を図れるように、文化事業の踊りの鑑賞などに福祉席の設置を依頼して活用し、参加の機会を設けている。職員は、入居者本位のケアを心掛けて、法人内の医師・看護師との医療連携に努めて、家族の安心に繋がる支援に取組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ありあけ棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々申し送りやミーティング等を通し、共有・統一を図っている。	管理者は、掲示してある理念を日々の業務の際に確認し、入居者の立場に立ち職員が自分の親を思う気持ちで優しく関わってほしい旨を示唆している。職員は、職員会議を開催時に理念の振り返りを図り意識の統一を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人の祭り等には出来るだけ地域の方々にも参加して頂いたり、慰問等も出来るだけ受け入れるよう繋がりを大事にしている。	企画業務課長は、日頃から民生委員や老人クラブ等と交流を積極的に図り、課題の解決へ繋げる取組がある。地域への働きかけによって母体の行事への地域参加者も多く、ホームへの理解や周知に向け取組んでいる。管理者は、中学生の福祉体験の受け入れと高校生のプラスの発表会や大正琴のボランティアも受け入れて、地域の方と交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学や面会に来られた方や、地域の方々よりの質問や、相談に対し助言等を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常の生活の状態報告、サービス状態等を報告し、意見交換等も行っている。	会議は2か月を目途に看取りや身体拘束等ホームの取組状況を報告し、運営の透明性や今後の課題の傾向を双方向に話し合っている。会議の内容に沿って、民生委員や地域の方に参加して頂き、協力関係の構築に向けて取組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の更新手続き等を市役所に出向き行い、又、運営推進会議へ参加して頂き協力関係を築いている。	運営推進会議にて、理事長及び開設者も参加の上での市職員との連携に繋がる話し合いの場がある。事務手続きは、課長が常に出向いて連携を取組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外の施錠は行わず、センサー使用時は個々の状態を十分に話し合い使用している。又、拘束委員会が設置されており、委員会でも身体拘束について充分検討し活用している。	職員は平成27年度「身体拘束委員会」を立ち上げ、法人内で行動障害に対して専門医や職員間で話し合いながら理由や代替え方法を検討し、拘束のないケアに取り組んでいる。現在「緊急やむを得ない身体拘束に関する説明書」にて家族に説明の上、同意書を頂き、入居者の転倒防止の為にベッド柵の使用やセンサーの設置、抑制服の使用を1か月ごとに評価して見直し対応方法や環境を調整する取組みをしている。	身体拘束については、運営推進会議の席や身体拘束委員会で取組状況を話し合い、「身体拘束実施における記録表」に使用時間を記録しながら拘束の必要性を検討している。今後、更に振り返りや問題点を整理しながら、問題行動に対する理解を深め、できる限り使用する時間の短縮を考慮して、抑制服を取り除く工夫や生活の質を高め身体拘束のないケアの取組に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新聞や報道等は全職員で閲覧し、研修にも参加を促し防止に努めている。又、入浴時や、更衣時の身体チェックにも注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等参加し、ミーティングや、申し送り時等に報告し活動できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行っている。疑問点や、質問があった場合はその都度説明し、理解・納得していただける様努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置、ケアプラン作成・面会時等意見要望に応え、法人へも報告し運営に反映させている。	職員は、家族の要望を「要望書」に記録して職員に周知を図り、職員会議で話し合い内容に沿って応答している。家族より電気毛布の使用やベッド柵使用を要望があるが、要望内容を検討し家族に説明の上、湯たんぽの使用等に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や、申し送り時に限らずその都度話し合いを行い反映させるようにしている。	職員会議は、理事長も含めた話し合いの下、昨年の電動ベッドの交換や入居者の動きが把握できるPHSへの交換、また、業務多忙に伴う職員増員の要望を聞き入れ改善に取り組んでいる。職員はお互いの意見が言える関係にあり、休日の要望や変更も可能である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各種資格手当や昇給あり、職員の配置人数にも気を配り、研修等にも参加しやすい環境作りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修などに、出来るだけ多く参加するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会に入っており、研修会にも出来るだけ参加するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に入居者、ご家族、ケアマネージャーより情報収集を充分行い安心確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のお話を傾聴し不安、要望をくみ取るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者、ご家族の思いや要望を確認し、他施設等の説明もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を活かして頂き出来るだけご自分でしていただきながら、支え合い良好な関係を築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やTELにて、入居者の思いや、日々の状態等を伝え共に協力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時等はゆっくりと過ごして頂ける場の提供を心掛けている。又、ご家族や入居者より行きつけの場所や、趣味等の情報を収集し少しでも思い出が継続できる様ご家族にも協力して頂き支援できるよう努めている。	入居者が新聞を購読したり、お盆で帰省したお孫さんたちが訪問しやすいような寛げる雰囲気を作るよう配慮している。また、家族の協力を得ながら、入居者がお正月や法事の際に、一時帰宅できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格・関係を把握し、孤立しない様寄り添っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他病院へ入院された時等は、お見舞いに行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の様子や行動・会話等から、思いや希望、行動等から情報をくみ取り支援できるように努めている。	入居者の身体レベル維持の為に、家族の要望に応じて歩行訓練のリハビリを取組んだり、移動図書館を利用して読書や紙芝居を楽しめるように支援している。職員は、入居者の可能性を導けるように、体操やかるた遊び、また、カラオケで楽しい時間が過ごせるように考慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集を密に行い、職員間でケアの統一に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、申し送りを通し状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者、ご家族、主治医の意見を踏まえ、ミーティングで話し合い介護計画を作成している。	介護計画は、医療と生活支援を踏まえて家族・医師及び職員の意見を集約し作成している。職員はサービスが実行できているかをサービス計画書の内容をチェック表に毎日記載し、実践状況を数値化しているが、長期及び短期支援目標に対し具体的な支援状況の変化や、入居者の満足度への反映が確認できない状況となっている。	前年度の外部評価を反映し、チェック表の書式を再考する事で、実践状況をより可視化できるようになっている。入居者の「できている・できていない」は確認できるが、入居者の有する能力が活かされたものになっているかという点では幾分課題が見える。入居者本位の目標設定や支援の振り返りをもとに、入居者に最適な支援はどのようなことであるかを考慮して、次の計画作成に繋がることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、連絡帳に全スタッフが目を通し情報を共有し見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに応じて案を出し合い対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動図書館の活用、買い物、個別外出を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、ご家族の要望を大切に、個々にあった受診を行っている。	職員は、定期的な他科受診を毎月支援しており、家族の同席が必要な時は連絡の上、病院で立ち会うようにしている。入居者の健康状態は、併設の病院の医師の診察により保持され、緊急時に対応している。また、院内の薬剤師の服薬指導もあり、職員の研鑽に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態を報告し、状態に応じて相談等している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換や、相談等を密に行い関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に応じて、主治医、ご家族、ホームスタッフと、インフォームドコンセプトを行い支援している。	家族の協力と同意の下、看取りの経緯があり、看取りについては入居時契約書にて家族に説明をしている。入居者の身体状況の変化の際は医師・職員・家族も交えて話し合い、家族の意向を伺いながら看護支援に努めて記録をしている。職員は、内外の研修にて感染処理・薬の作用など研鑽に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修等参加し、学んだ事を他スタッフへミーティングを通し伝えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	避難訓練に定期的に参加し消火方法を学んでいる。	避難訓練は消防署職員参加の下、出火場所を変えて合同の夜間想定訓練を実施している。法人内各事業所より、夜勤時の職員を想定して、職員が入居者になり避難搬送を取組んでいる。院内の自衛消防組織表及び防火防災体制編成表に基き職員緊急呼出し系統等を整え、緊急時の持ち出しファイルを作成している。また、併設院内のリネン室に備蓄品を保管して、缶詰などの食料品も備蓄している。	地震等災害発生時の応急活動対策について非常災害対策本部設置要綱として整備しているが、訓練の実施に繋がっていないので、避難訓練を含めて毎月の訓練の実施の工夫を期待したい。更に、危機管理を図り、消防設備及び障害物などの点検を毎月実施して、備蓄品の補充と消費期限記入の備蓄リスト作成を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合った声掛けをし、入居者の気分を害さない様になっている。	職員は年2回接遇マナーの研修を受けて、言葉のかけ方に留意して入居者の言葉を否定しないで傾聴するように心掛けている。入居者は目上の方であることを大切に「どうですか？」と意向を伺い意志を確認して、気分よく応じて頂けるように取組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の生活の中での表情、会話からくみ取り自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切にしながら、その時々状態に合わせ、入居者を第一に考えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の意思を大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みを把握し、片付けを手伝っていただいている。	入居者もたまねぎの皮むきや梅干し作り・ざぼん作りに参加して、調理を楽しんでいる。職員は、調理器具のチェック体制に取組み、衛生面の徹底を心掛けている。入居者の食の楽しみに、行事食・誕生日、赤飯やお寿司など彩り良く献立を作成して、入居者の食事形態もソフト食・ミキサー食の提供も取組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量をチェックし、個々の状態に合った食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、夜間は洗浄剤を使用し清潔を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、パターンを把握し、出来るだけオムツを使用しないよう努めている。	入居者の自立排泄に向け、オムツを使用している方も、1日に1回はトイレにて排泄ができるように職員が支援して起立保持への促しを取組んでいる。日々の食事を考慮して、便秘予防に努めている。入居者の排泄状況に応じて、パットに頼らず言葉かけで排泄の自立を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、排便状態を把握できるようにしている。又、適度な運動を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は一応決めているが、その時々々の状態や、ご本人の気分に合わせて入浴していただくよう支援している。	入浴拒否がある方へは言葉のかけ方に工夫し、往診の際に医師からの言葉かけでスムーズな入浴に繋げた事例もある。入居者の身体状況に応じて、一般浴とリフト浴を使い分け、リフト浴の支援は職員2名体制で支援している。入居者の好きなシャンプーを使用したり、皮膚の異常がないかチェックして受診により皮膚の保湿に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に合わせ、臥床の援助、促しを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養指導にて薬剤師と報告、連絡を密にし、入居者の状態把握に努めている。又、服薬管理表を作成し薬の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	移動図書館の活用、個別外出、その時々々の行事にて気分転換を図っていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	個々の体調、ご家族の都合等を調整し外出して頂けるよう支援している。	入居者の重度化に伴い、外出の機会の確保に苦慮しているが、四季折々の花の開花の鑑賞ドライブを企画した折には、リフト車を準備して外出の支援に取り組んでいる。家族にも外出の機会への協力を依頼している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を預かる体制はあるが、おこずかい程度の為個別で管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に添ってTEL等で連絡できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度調整、空気の入替え等、不快感を持たれない様心掛けている。又、季節の花等を飾りつけるなどしている。	入居者と職員の共同作品が掲示してある共用空間は、和室やソファを配置して寛ぐ事もできるように配慮してある。2ユニットの隔たりを最小に留めて、入居者が手すりのついた廊下を歩行訓練できるように支援している。入居者は、食後各々の居室で休まれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状態に合わせて環境整備を行い居場所の工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に協力して頂き、使い慣れた物を持ってきて頂く等している。	家族の訪問時、居室で過ごせるようにソファやテレビと少しでも寂しさを癒せるようにとぬいぐるみを持ち込まれている。寝具類は、家族の意向に沿って配慮し電動ベッドの交換により、入居者の体位の調節を考慮して支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	全面バリアフリーで手すりを設置しており、リフト浴、車椅子のまま入れるトイレ等を完備し、出来るだけ自立した生活を送って頂くよう工夫されている。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 たちばな棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員全員で共有し、実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、ホーム便りを作成し地域に配布したり、地域の祭り等にも出来るだけ参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域の方々にも参加して抱いている。(自治会、民生委員、老人クラブ)等 又、地域の学生等の見学や体験等の機会も設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス情報等報告し、意見交換を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険等の更新手続きを、市役所に出向き行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠は夜間のみで、状態によっては転倒防止の為にセンサーを活用している。又、拘束委員会を設置し、拘束についてはその都度話合っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に出来るだけ参加し、研修内容も職員全員で回覧できるようにしている。更衣時や、入浴時には身体チェック等もおこなっている。		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、研修内容も職員全員が回覧できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に詳しく行っている。又、不安や、疑問等あった時はそ都度対応するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。又、口頭で受けた意見、質問等はその都度要望書に記入し提出している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	理事長を含めたミーティングや、申し送り時などに機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自が向上心を持てるよう、各手当が支給されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修に参加するよう推進されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会に入っており、研修会等に多く参加するようにしている。		

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族との信頼関係を築く為に、不安や、要望等に耳を傾け安心を得て頂けるよう努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話に耳を傾け、困っている事、不安、要望に添えるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者と、ご家族の話を傾聴し、カンファレンスを開き検討している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存能力を活かしながら、協力し合い行っている。(洗濯物畳み、おしぼり巻き、野菜の皮むき等)	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、電話等にて日頃の状態報告や思いを伝え共に協力している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来訪時、友人とゆっくり過ごして頂ける場所の提供を心掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格、関係を把握し、孤立しないよう寄りそっている。	
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他病院へ入院されてもお見舞いに行っている。	

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活からの会話や、行動、表情などを観察し意向をくみ取れるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者や、ご家族より情報収集を行ったり、入居後の会話や、生活状態等から状態を把握し理解するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活パターンを把握し、活かすよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員ミーティングや、主治医の意見、家族の意見等を聞き、話し合い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の状態や、変化等を記録しスタッフ全員が目を通し情報を共有し活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状態に応じて話し合いの機会を作り、意見を出し合い対応している。		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動図書館を利用したり、個別外出や、買い物代行等を行い支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、ご家族の要望を大切にし、納得いく受診が出来る。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病院との併設の為、状態報告や、相談が密に出来連携が保てている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との併設の為連携を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に応じて早い段階より、ご家族、主治医、職員等が話し合い、連携を保ち、より良い支援ができるよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	研修会に参加したり、医師や、病院看護師に相談したりしながら実践力を身につけるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防署からも来て頂き、消火訓練や、避難訓練で指導してもらっている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合った言葉かけや、声のトーン等に配慮するよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の生活の中で表情や会話からくみ取り、自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースで、その時々の状態に合わせて入居者第一に考えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みの尊重し支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好や食事形態を把握し、それぞれに合った食事を提供している。食事準備は残存能力を活かし参加して頂くようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事量は記録に残し、日々の生活に活かせるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。		

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作り、排泄パターンを把握し、誘導、促しを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活かし行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応入浴日を決めているが、入居者の意思や、気持ちを優先している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表を活用を作成し活用、3回チェックを行い、服薬支援を行っている。効能や、副作用については薬剤師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	移動図書館を利用したり、買い物へ行ったり、慰問を積極的に受け入れ楽しみを持ってもらえるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物や、外食等は家族にも協力して頂き、出来るだけ入居者の希望に添えるよう支援している。		

50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭を預かる体制はあるが、小遣い程度で、基本はご家族で管理されている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話の取次ぎ等自由にして頂くよう支援している。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>出来るだけ穏やかに過して頂けるよう、温度や、明るさ等配慮し、又、季節を感じて貰えるようにしている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>和室やソファー等を配置し、くつろいでもらえるよう工夫している。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居の際、ご家族に協力して頂き、ご本人が使い慣れた家具等を持ってきて頂いている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>バリアフリーで、手すりも設置されており、又、廊下も広く、安全に行き来できるように工夫されている。</p>		